学校給食だより　秋田っ子給食　NO－506
公益財団法人秋田県学校給食会

「地方点描」　合格祈願

高校入試は県内の多くの子どもたちが初めて経験する社会的な選抜試験だろう。公立高校入試1次募集の特色、一般選抜は4日に学力検査と面接が行われる。本番を間近に控え、緊張している受験生もいるかもしれない。

三十数年前に高校入試を経験したわが身を振り返ると、緊張したかどうかは定かでない。ただ、受験番号「148」を「石屋」と読み替え、「石は硬いので合格も堅い」と自らに言い聞かせたのを覚えている。何とか志望校の合格にこぎ着けたので、語呂合わせによる験担ぎも無意味ではなかったのだと、いまさらながらに思う。

落ちないリンゴ、得点が伸びるバター餅、するすると入る稲庭うどんー。近年は、地元企業が頭をひねった合格祈願の品々が受験生に贈られている。企業のPRの意味もあるだろうが、誰かの応援があると思えば、子どもたちの心も上向く。

横手市では、増田中の生徒に昆布、十文字中の生徒には箸が、地元ゆかりの企業から贈られた。昆布は製造過程で宙に舞い上がり、食べると粘り強いのが特徴だ。箸は「ごうかく」にかけた五角形で、木製のため滑りにくい。

取材で両校を訪れると、生徒はみそ汁に入れた昆布をおいしそうに口にし、五角形の箸を手に満面の笑みを見せてくれた。リラックスした様子に安心すると同時に、「地域の方の応援がうれしい」との言葉が心に響いた。

験担ぎは平常心で試験に臨むためのおまじないのようなもの。自分だけの語呂合わせをつくってもいい。周りの全てを味方につけ、努力の成果を出し切ってほしい。

（横手支社編集部長・梅川正城）

（令和8年3月3日（火）　秋田さきがけ新聞から一部抜粋）